

No. 1	会計パズルにチャレンジ！ 会社の内容を点検してみませんか？
担当講師	深谷 和広（ふかや かずひろ） 経営学部ビジネス学科 教授
研究分野	会計学、財務諸表論
講義内容	現代社会で求められるのは現場の問題を解決できる能力です。この能力を「地アタマ」と呼びます。「地アタマ」を鍛えるには数字センスを磨くことが重要です。 この講義で会計パズルを用いて会社の内容を探ってみます。会計パズルを読み解くことで数字センスを磨いてみませんか。将来予測が困難な社会で活躍する会社の内容がどのようなものか。具体的にわかりやすく解説したいと思います。

No. 2	多様性に対する感受性を高めよう！
担当講師	伊藤 恵美子（いとう えみこ） 経営学部ビジネス学科 教授
研究分野	日本語教育学
講義内容	世の中には多様な価値観や行動様式が存在します。自分の価値観はその一例に過ぎないのだということに気づき、自文化中心主義から文化相対主義への視点を養います。 講義はグループワークなどを盛り込みながら進めていきます。

No. 3	広告はどのようにして作られるか
担当講師	上條 憲二（かみじょう けんじ） 経営学部ビジネス学科 教授
研究分野	ブランド論、広告論
講義内容	テレビ、新聞、雑誌、ラジオ、交通広告、そしてインターネット。私たちの周りにはたくさんの広告が溢れています。有名なタレントが登場して商品や会社のことを知ってもらおうとするものや、芸術作品のように表現にこだわったものなど様々な広告があります。 この講義では、そうした広告が一体どうやって作られ、どうやって受け手に届けられるのか、誰が、何をしているのかを具体的に説明するとともに、広告の役割についても考えます。

No. 4	スポーツツーリズムの可能性を探る
担当講師	杉谷 正次（すぎたに まさつぐ） 経営学部ビジネス学科 教授
研究分野	スポーツマネジメント、経営情報学
講義内容	スポーツツーリズムは、「スポーツ」と「観光」を融合した新しいビジネスモデルとして期待されています。 この講義では、スポーツツーリズムを成功させている北海道や沖縄県の先進事例を紹介するとともに、今後のスポーツツーリズムの可能性について考えます。

No. 5	わたしの経営学
担当講師	手嶋 慎介（てじま しんすけ） 経営学部ビジネス学科 教授
研究分野	経営学
講義内容	これからの時代を生き抜く「力」について考えます。経営学の古典的な理論でも、「外部環境の変化」に対応して「組織のあり方を変化」させることが必要だといわれます。 では、私たち個人が生きていくためには、どのような力が求められ、どのように変化（成長）すれば良いのでしょうか？「じぶんの経営」を考えてみましょう。

No. 6	大学で学ぶ“観光”
担当講師	宮本 佳範（みやもと よしのり） 経営学部ビジネス学科 教授
研究分野	社会学（観光社会学）
講義内容	現在、日本には観光について学べる大学がたくさんあります。みなさんは、そこでどんなことを学ぶのかイメージがわかりますか？具体的な学びの内容、どんな人に合っているのか、何の役に立つのかなどはイメージしにくいのではないのでしょうか。 そこでこの講義では、大学での観光に関する学びの概要や観光振興や観光まちづくりを考えるうえで重要になる新しい観光資源についての考え方などをわかりやすく解説します。

No. 7 障害者の経営学	
担当講師	寺島 雅隆（てらしま まさたか） 経営学部ビジネス学科 教授
研究分野	起業家育成、障害者起業
講義内容	障害者の視点から働くとはどういう事かを考えます。最近LGBT（8.9%、電通2018）がマイノリティとして注目されていますが、障害者も7.4%（内閣府2018）存在します。 社会的関係で孤立しがちな障害者という視点に立って、働く意味を考えます。障害者の中には、寝たきりであるにも関わらず、時給10万円以上を稼ぐ人もいます。そのような多様性の中で、自分らしい働き方を模索しましょう。

No. 8 人を大切にして成長する経営	
担当講師	今瀬 政司（いませ まさし） 経営学部ビジネス学科 教授
研究分野	経営学、経済学、社会学、政治学
講義内容	経営学が「企業の業績重視経営」から「人を大切にする経営」に変わりつつあります。 「人を大切にする経営」を行う企業ほど、顧客や入社希望者が増え、企業業績や社員給与が上がり続けています。多くの企業の成功事例がそうしたことを示しています。 この講義では、「社員の幸せを大切にしながら、好業績を上げ続ける経営」を行う企業について、その経営ノウハウと具体的な企業事例を学びます。

No. 9 経営学の何が面白いの？	
担当講師	藤田 幸敏（ふじた ゆきとし） 経営学部ビジネス学科 教授
研究分野	経営学、経営史
講義内容	企業の正規社員になった経験の無いであろう高校生にとって経営学は、まだまだ縁遠い学問であって何が面白いのか良く分からないと思います。 そこで、身近な事象を経営学的にとらえることで見えてくる世界が変化することを実感し、経営学の面白さを体験すると同時に、経営学が必ずしも企業に限定されず、日常生活の中にも活かされるものであることを理解してほしいと思います。

No. 10 モノを買うこととモノを売ること	
担当講師	安藤 真澄（あんどう ますみ） 経営学部ビジネス学科 教授
研究分野	広告コミュニケーション論、メディア論
講義内容	みなさんは毎日色々なモノを買っています。コンビニでは毎月のように新しいお弁当やスイーツが売られていて目移りしてしまいます。ネットで欲しいモノを検索して、好きなモノを好きな時に買うこともできます。でも、そういうモノを作ったり、売っている人々の苦労や工夫について考えたことはありますか。 そこで、この講義ではモノを作り、売る人々が何を考え、何を意図しているかについて、具体的な事例を通して考えていきます。

No. 11 きみの気持ちは、どこからくるの？心か脳か？ -コミュニケーションの不思議-	
担当講師	吉村 美路（よしむら みち） 経営学部ビジネス学科 准教授
研究分野	社会心理学、組織行動学、コミュニケーション学
講義内容	「人見知り」「照れ屋さん」「緊張しやすい」。わたしたちの性格特徴はどのように形成され、コミュニケーションに影響しているのでしょうか？ 心の動きには大きく2つの無意識の反応が影響します。ひとつは、DNAに刻み込まれた生得的反応、ふたつ目は幼少期からの経験によって学習された反応です。思わず起こる心の動きや行動は、あなたの中の無意識によって引き出されているのかもしれませんが。そんな不思議な世界を、少しのぞいてみましょう。

No. 12 高校から経済学を学ぶ意義	
担当講師	Tran Thi Tuyet Nhung （ちゃん・てい・とういえと・にゅん） 経営学部ビジネス学科 准教授
研究分野	経営学、商学
講義内容	日本では、経済学という科目は大学のレベルで勉強するという認識が一般です。これに対してアメリカやヨーロッパ諸国では、高校の時から経済学が教えられ、近年、高校生向けの経済の教科書がどんどん開発され、経済学の教育が強化されている傾向が見られます。 なぜ高校から経済の知識を習得する必要があるのでしょうか。高校から自習で経済を勉強したかったらどんな学習方法があるかについて一緒に考えましょう。

No. 13 ストア派と英語の習慣術	
担当講師	Jordan Rolfe Johnson (ジョーダン ロルフ ジョンソン) 経営学部 ビジネス学科 講師
研究分野	Second Language Acquisition, Politics
講義内容	テストの点数や失敗への不安で、英語学習のモチベーションが下がっていませんか？ 本講義では、古代ギリシャの「ストア派」の知恵をヒントに、英語を楽しく学び続けるための心の整え方を紹介します。周りの目や結果に一喜一憂せず、「自分でコントロールできる努力」に集中することで不安を和らげ、前向きな習慣をつくります。 失敗を恐れず、理想の自分へ近づくための実践的な知恵を英語と日本語を交えて解説します。

No. 14 GDPと国民経済計算	
担当講師	岩本 光一郎 (いわもと こういちろう) 経営学部ビジネス学科 准教授
研究分野	経済学(家計行動の実証分析)
講義内容	この講義では、一国の経済の規模を測る最もポピュラーな指標であり、国単位での経済成長率の計算にも使われるGDPという概念への理解を深めることを目指します。 併せて、現実の社会でGDPを計算する枠組である国民経済計算（SNA）についても解説します。

No. 15 異文化理解ワークショップ	
担当講師	佐々木 裕美 (ささき ゆうみ) 経営学部コミュニケーション・デザイン学科 教授
研究分野	アメリカ研究(文学・州政治)、 大学英語教育
講義内容	「異文化を理解する」とは、具体的にどういう意味なのか、そもそも「文化」とは何を指すのかを、活動を通して考えるワークショップです。自分が「当たり前」と思っていることは、もしかして隣の席に座っている友だちの「当たり前」ではないかもしれません。 体を動かしたり、お互いの日常生活の「当たり前」について話し合うことを通して「異文化理解力」を身につけることはどういうことなのかを、皆で考えます。

No. 16 フェイクニュースを見抜く ニュースの見かた	
担当講師	原 京二 (はら きょうじ) 経営学部コミュニケーション・デザイン学科 教授
研究分野	メディア論、地域情報論、 放送政策論、ブランド構築論
講義内容	情報には大きく二つの領域があります。一つは一次情報、もう一つは二次情報です。一次情報とは直接聞いた情報、二次情報とは人づてに聞いた話です。 テレビニュース、SNSのニュースなど、皆さんが接するニュースや情報には、この一次情報と二次情報が混ざっています。まさに皆さんは情報のお弁当箱を持っています。私たちは、何を信じ、何を疑うべきなのか…、そんなことを、一緒に考えてみませんか。

No. 17 文系エンジニア 仮想通貨を学ぼう！	
担当講師	宮城 エステバン (みやしろ えすてばん) 経営学部コミュニケーション・デザイン学科 教授
研究分野	データ分析、情報セキュリティ、 ラテンアメリカ文化・経済・政治、教育・学習システムの分析
講義内容	理系ではないのでコンピューターがすごく難しいと思っていますか。 自分で仮想通貨を作るのはありえないのか。実は現在開発がどんどん進んでいて、仮想通貨が誰でも作れるようになりました。 簡単なデモをお見せしますが、その前に仮想通貨の仕組みと可能性、特に取引における危険性を説明します。 仮想通貨を支えるブロックチェーン技術は、世界を変えるかもしれません。ブロックチェーンや仮想通貨は難しくないのですみんなで基本を理解しましょう！

No. 18 私たちの身の回りにある 「サイン」を意識してみる	
担当講師	谷口 正博 (たにぐち まさひろ) 経営学部コミュニケーション・デザイン学科 准教授
研究分野	デザイン学、エンターテインメント情報学
講義内容	標識、看板などの「サイン」は私たちの生活と密接し、かつ自然に「ふつう」に存在し、強く意識をせずとも安全で快適な行動を促されてきました。 近年、急速にDX(デジタルトランスフォーメーション)が進み、これらはデジタルサイネージ、DOOHと呼ばれる各所にインストールされ生活空間をアップデートしています。 広告メディアとしての集客的な側面と、人や交通機関の流動導線最適化という重要な役割が見出された事例を交えて紹介します。

No. 19 魅せる×伝える：私たちの暮らしを 彩るクリエイティブの世界	
担当講師	向島 美奈子（むこうじま みなこ） 経営学部コミュニケーション・デザイン学科 助教
研究分野	デザイン学
講義内容	この講義では、広告やグラフィックデザインが持つ「人の心を動かす力」について、実際の制作事例を交えながら紹介します。 普段何気なく目にしている広告やデザインには、どのような工夫が隠されているのでしょうか？ 色やフォント、レイアウトの選び方から、最新のデジタルツールを使った制作手法まで、プロのデザイナーの視点からクリエイティブの世界をご案内します。

No. 20 地球温暖化を考える	
担当講師	高木 靖彦（たかぎ やすひこ） 経営学部コミュニケーション・デザイン学科 教授
研究分野	惑星科学
講義内容	「地球温暖化」という言葉はニュース等で良く聞きますが、皆さんはその原因や仕組みを良く理解しているのでしょうか。 この問題を正しく理解するためには、物理・化学・生物・地球惑星科学（これらの学問を合わせて自然科学と言います）の幅広い知識が必要となります。 この講義では、高校の理科で学習している事柄を前提にして、できるだけ数式は使わないで写真やグラフを多く使って、地球表層の平均温度が上昇する理由、その事の影響を基礎から科学的に考えていきたいと思います。

No. 21 他の惑星見て 我が惑星を考える	
担当講師	高木 靖彦（たかぎ やすひこ） 経営学部コミュニケーション・デザイン学科 教授
研究分野	惑星科学
講義内容	太陽系には8個の惑星があり、それらの惑星は様々な顔をもっています。他の惑星の素顔を知ることが、我々の惑星地球をより深く知ることにつながります。 日本のことを深く知り考えるためには、他の国々との比較をしたり、世界の中での日本の立場を考えることが重要な点と同じです。他の惑星のことを知るための方法の一つとして惑星探査がありますが、惑星探査の最新の成果も取り入れながら、他の惑星を通して我々の惑星地球を深く知り考えていきます。

No. 22 サウンドとメディア	
担当講師	日栄 一真（ひえい かずまさ） 経営学部コミュニケーション・デザイン学科 准教授
研究分野	ヒューマンインタフェース、 インタラクション、知覚情報処理
講義内容	サウンドを、「情報を伝える媒体＝メディア」という視点から考えてみましょう。たとえば、音楽はメロディーやリズムを通じて気持ちを伝えたり、環境音はその場の空気や雰囲気を与えたりします。 アラーム音や駅での電車の出発音のように、音はときに「行動を促す」ための情報を伝えることもあります。また、映画やゲームでは、サウンドが物語の理解を深めたり、感情を引き出したりするメディアとして機能しています。サウンドを「メディア」としてとらえることで、音が社会やコミュニケーションにおいてどのような役割を果たしているかを考察してみましょう。

No. 23 アイデアを仕事に変える 考え方とは？	
担当講師	阿比留 大吉（あびる だいきち） 経営学部コミュニケーション・デザイン学科 助教
研究分野	立地論・都市構造
講義内容	新しい商品やサービスは、思いっぴきだけでは生まれません。誰のどんな困りごとを解決するのかを考え、相手の立場でニーズを捉え、伝わる形に組み立てることが大切です。 この講義では、身近な事例を使いながら、アイデアの発想法、価値の見つけ方、アイデアを形にする考え方をわかりやすく学びます。

No. 24 高校生でもできる！ 健康情報・データサイエンス応用編！	
担当講師	尚 雨華（しょう じか） 人間健康学部人間健康学科 教授
研究分野	予防医学、公衆衛生学
講義内容	少し前、岡山県的女子高校生が「納豆を片手で食べられる道具」を開発し、5つの金賞を受賞したニュースが話題になりました。このように、高校生の柔軟な発想や感性は、暮らしの中の不便さ、高齢者・障がい者の困りごと、さらには健康管理や美容、食生活へのニーズに気づき、新たな価値やサービスを生み出す力になります。 この講義では、スマホの睡眠記録アプリ（ポケモンスリープなど）や、履くだけで筋トレできる靴を体験しながら、健康情報・データサイエンスを楽しく学びます。あなたも、自分の目で社会の課題を見つけ、人々を助ける「発明家」にチャレンジしよう！

No. 25 ライフデザインを考える ～「人生ゲーム」をとおして	
担当講師	西尾 敦史（にしお あつし） 人間健康学部人間健康学科 教授
研究分野	地域福祉、地域防災
講義内容	スウェーデンでは、日本の「衣食住」にあたる生活の上で大切なことを「住む・働く・余暇」と考えます。 将来の職業人生を歩む上でも「ワーク」と「ライフ」のバランスをとって、社会の中で豊かで充実した（ウェルビーイングを実現する）人生を送るために、ライフステージ上でリスクとなるライフイベントを取り上げた「人生ゲーム」を行います。 「住む」「働く」「余暇」「結婚・離婚」「健康・病気」「子ども・子育て」「失業」「高齢」「死」「消費被害」「詐欺」などを通してより良いライフスタイルの選択ができることを目指します。

No. 26 「科学的」とはどういうことか	
担当講師	松尾 香弥子（まつお かやこ） 人間健康学部人間健康学科 教授
研究分野	認知神経科学、認知心理学、脳画像計測
講義内容	私の専門である心理学は、心について科学的に研究する学問です。「科学的」とは「根拠を示す」ということです。心理学では、何らかの計測をして数値化し、その結果を「根拠」として示します。目に見えない心をどうやって数値化するのか、ここが工夫のしどころです。 とはいえ、数値化ばかりが「根拠」ではありません。「スピリチュアル」だって「科学」できます。どうしたら「科学的」に心を扱えるのか、一緒に考えてみましょう。

No. 27 貯筋（肉）のすすめ	
担当講師	三好 弥生（みよし やよい） 人間健康学部人間健康学科 教授
研究分野	介護福祉、高齢者福祉
講義内容	女性はぽっちゃりしているより、痩せている方がステキだと思っていませんか？ 近年、わが国では、高齢者の介護予防の観点から筋力低下がクローズアップされています。一方で、思春期から若年成人の意図的な痩せの問題も着目されています。15歳～19歳の体格は向上しているものの、筋力は低下しているそうです。 この講義では、若年女性の筋力低下が健康にどのような影響を及ぼすのかについて学びます。

No. 28 ゲームでのびる！ 反応力・判断力・体力	
担当講師	松永 昌宏（まつなが まさひろ） 人間健康学部人間健康学科 教授
研究分野	健康情報学、心理生理学（感情神経科学）
講義内容	ゲームは「遊び」だけではありません。近年は、画面を見て判断し、すばやく体を動かす活動が、体力づくりだけでなく集中力や判断力にも関わることが注目されています。 この講義では、最近開発された液晶モニターを足でタッチして操作するクイックステップトレーナーを体験しながら、脳とからだを同時に働かせる運動の面白さを学び、健康づくりや部活動、日常生活への生かし方を考えます。

No. 29 理解して身に付けるマット運動 【倒立編】	
担当講師	小島 正憲（こじま まさのり） 人間健康学部人間健康学科 教授
研究分野	体育科教育学
講義内容	「倒立」は、マット運動の種目として基礎的な技の一つです。しかし、非日常的な動作であるため、「恐怖心」を持つ学習者も少なくありません。 そこでこの講義は、学習者に倒立の構造を理解してもらい、そこから段階的な指導を取り入れることによって、「恐怖心」が軽減できる倒立指導をしていきます。

No. 30 ナイチンゲールの7つの素顔 －誰もが看護師でなくてはならない－	
担当講師	渡辺 弥生（わたなべ やよい） 人間健康学部人間健康学科 教授
研究分野	看護学
講義内容	ナイチンゲールを知っていますか？クリミア戦争（1853年）での活躍がイギリスで高く評価され、看護を職業として確立させた近代看護制度の創始者です。環境を整えることで死亡率を下げた経験から人間が健康に生活するために環境を整えることが重要であることを説きました。 現代に生きる私たちも環境による様々な問題に直面しています。 「誰もが看護師でなくてはならない」というナイチンゲールの真実から私たちはどう健康に生きるべきなのかを学んでみましょう。

No. 31 「こころ」の競技能力とは？	
担当講師	山村 伸（やまむら しん） 人間健康学部人間健康学科 准教授
研究分野	スポーツ心理学、コーチング学、 保健体育科教育学
講義内容	スポーツ場面においてメンタル面の重要性は経験的に知られていることですが、この勝敗を分ける「メンタル」とは一体なんなのでしょう？ この講義では心理テストを用い、その具体的な内容について学んでいきます。

No. 32 睡眠や生活リズムの調整	
担当講師	吉村 道孝（よしむら みちたか） 人間健康学部人間健康学科 准教授
研究分野	臨床心理学概論、神経・生理心理学
講義内容	睡眠不足で眠気が残ると記憶力は下がり、集中力は上がりません。健康を維持し、日中のパフォーマンスを高めるためには、どのような生活習慣を送ればよいのでしょうか。特に高校生は生体リズムが夜型傾向となり、受験や部活による心理ストレスも多く体内時計の調節が難しい時期です。スマホの適正な使用方法や、自分の体質にあった勉強方法・練習、眠れないときの対処方法などを一緒に考えてみましょう。

No. 33 心理テストから考える 臨床心理学的実践	
担当講師	松田 凌（まつだ りょう） 人間健康学部人間健康学科 准教授
研究分野	臨床心理学
講義内容	絵を描いてもらうだけで人の心がわかる？インクの見え方が性格によって違う？信じられない方も多いのではないのでしょうか。 しかし、投影法と呼ばれるこれらの心理テストは、心理士が臨床場面で使用する「武器」の一つです。 この講義では、心理テストを中心に臨床心理学的実践について学び、心理士の仕事について考えていただきます。

No. 34 スポーツ活動における熱中症対策	
担当講師	中野 匡隆（なかの まさたか） 人間健康学部人間健康学科 准教授
研究分野	運動生理学
講義内容	熱中症は、高温多湿な環境に長時間いることで、暑さで体温調節がうまく機能しなくなり、体内の熱を体外へ捨てることができなくなった状態のことで、最悪の場合は死に至ります。 暑い環境でのスポーツ活動ではとくに対策が重要です。しかし、症状がないときでも身体にはいろいろな変化が起こっており、スポーツのパフォーマンスを低下させる可能性があります。正しい知識を知ることが熱中症を予防するだけでなくパフォーマンスの維持にも役立ちます。

No. 35 「教え」の知を「学び」に役立てる －勉強に役立つ教育方法学－	
担当講師	丹下 悠史（たんげ ゆうし） 人間健康学部人間健康学科 准教授
研究分野	教育方法学
講義内容	教育方法学は、教育の方法すなわち教え方に関する学問です。よい教え方を追究するには、学ぶ主体である子どもの学習の特質を知ることが大切です。 この講義では、教師など人に教える仕事に関心のある人はもちろん、効率的な勉強方法を知りたい人にも向けて、教育と学習についての研究成果をお伝えします。

No. 36 スポーツの楽しみ方について 考えよう	
担当講師	松村 雄樹（まつむら ゆうき） 人間健康学部人間健康学科 講師
研究分野	スポーツ社会学
講義内容	第3期スポーツ基本計画の新たな「3つの視点」として、スポーツを「つくる/はぐくむ」、スポーツで「あつまりともにつながる」、スポーツに「誰もがアクセスできる」が挙げられ、これまで以上に多様な人へのスポーツの機会創出が期待されます。 この講義では、スポーツの現状や多種多様な人々がスポーツを楽しむにはどうしたらいいのか？について、一緒に考えていきましょう。

No. 37 トレーナーってどんな仕事？	
担当講師	芝 純平（しば じゅんぺい） 人間健康学部人間健康学科 助教
研究分野	ストレングス&コンディショニング、 トレーニング科学
講義内容	みなさんは、トレーナーという職業を聞いたことがあるでしょうか？ 最近では、SNSなどを通してスポーツトレーナーやパーソナルトレーナーといった言葉を聞いたことがあるかもしれません。しかし、そんなトレーナーにも専門分野が存在します。 では、どんな専門分野があるのか？各専門分野でどんなことができるのか？どんな資格が必要なのか？などをお伝えしたいと思います。

No. 38 コーチング・トレーニング論入門	
担当講師	木野村 嘉則（きのむら よしのり） 人間健康学部人間健康学科 助教
研究分野	体育方法、身体教育学、スポーツ科学
講義内容	これまで部活などで、スポーツに取り組んできた経験があるのではないのでしょうか。 この講義ではスポーツの上達のための指導やトレーニングに関するトピックを紹介します。競技力を高めるにはどのような知識や資質が必要となるのでしょうか。 この講義ではこのような視点から、よい指導者やよい選手を目指す際に、どのような学習を進めてスポーツと向き合っていけば良さそうかを考えていきたいと思います。

No. 39 ケガをしない身体を作るための基礎知識	
担当講師	萩原 麻耶（はぎわら まや） 人間健康学部人間健康学科 講師
研究分野	スポーツ医科学
講義内容	多くのスポーツ選手はケガを一度は経験しています。ケガによってスポーツ活動に参加できなかったり、競技力が向上できないこともあります。ケガをしないためにも、ケガをしない身体作りが大切です。 ケガをしないようにするために、まずは姿勢チェックから、実際のトレーニング方法などについてこの講義を通して学んでいきます。

No. 40 スポーツにおけるケガの発生と予防	
担当講師	西本 浩章（にしもと ひろあき） 人間健康学部人間健康学科 講師
研究分野	保健体育科教育学、武道、スポーツ傷害
講義内容	高校3年間、部活動に一生懸命に取り組む方は多いと思います。 しかし、大きなケガをしてしまうと、この限られた期間に思うようにスポーツができなくなる可能性があります。 この講義では、ケガの発生要因を解説し、動作の体験と比較を通して身体の使い方を理解します。 さらに、ケガのリスクを低減する行動の選択について考え、安全に運動を行うための意思決定力を養います。

No. 41 インターネットの光と影	
担当講師	正岡 元（まさおか はじめ） 人間健康学部人間健康学科 助教
研究分野	情報通信ネットワーク
講義内容	インターネットは今や生活を支えるインフラとしてなくてはならないものになっています。みなさんも普段スマートフォンを通して、ネット検索やSNSなどインターネットを利用していると思います。さらに、日常生活の意外なところでインターネットを利用していることもあります。インターネットの意外な使われ方や未来について紹介します。 しかし一方で、インターネットには怖い一面もあります。SNSでのトラブルなどは聞いたことがあるかもしれません。他にもいろいろな落とし穴についても知って、トラブルに巻き込まれないように、インターネットを楽しく便利に使えるようになりましょう。

No. 42 プログラミングを学ぶ	
担当講師	宮崎 彩乃（みやざき あやの） 人間健康学部人間健康学科 助教
研究分野	応用情報学
講義内容	みなさんはプログラミングと聞くと難しそうだというイメージを持っていませんか？ 実はプログラミングはパズルのようなもので、基本のルールや組み合わせを覚えれば意外と簡単に作れちゃいます。 この講義では、ゲーム感覚でプログラミングを体験しながら誰でも楽しく学ぶことのできる講義を行います。

No. 43 「遊び」って楽しいよ！！	
担当講師	堀 建治（ほり けんじ） 教育学部子ども発達学科 教授
研究分野	幼児教育、保育
講義内容	みなさんが幼い頃、どのような遊びに夢中になっていましたか？ 子どもは「遊び」が大好きです。子どもにとって「遊び」は生活であると同時に、「学び」の機会となっています。幼児教育・保育の世界では、子どもにとって「遊び」は生活であり、「学び」であると考えられています。 子どもがワクワク・ドキドキするような「遊び」をもう一度体験しながら、幼児教育・保育における「遊び」の意味や保育の意義、さらには保育職の魅力についてお話しします。

No. 44 音楽の窓から覗いた子どもの育ち	
担当講師	水野 伸子（みずの のぶこ） 教育学部子ども発達学科 教授
研究分野	音楽教育学、音楽心理学
講義内容	皆さんは自分の音楽を楽しむ感覚がいつ身についてきたのか不思議に思ったことはありませんか。 こんなもので音を奏で、音楽を作ることができるのかという驚きの素材を用いてみんなで合奏を作る楽しさを味わいながら、音楽的感覚の発達の道筋をお伝えします。 子どもを対象に様々な音楽実験をしてきた経験、300回以上子ども達のところで出前コンサートをした経験から、子どもと音楽について語ります。

No. 45 子どもの言語習得と 小学校英語教育	
担当講師	西崎 有多子（にしざき うたこ） 教育学部子ども発達学科 教授
研究分野	英語教育
講義内容	2020年度から小3・小4は外国語活動、小5・小6は外国語を学んでいます。子どもの言語習得を踏まえてどのような学び方がよいのでしょうか？日本人は英語が苦手とよく言われますが、なぜでしょうか？ 体験を交えて、何をどのように学んだらよいのかについても皆で考える機会にしましょう。

No. 46 君も算数の先生になろう！	
担当講師	小池 嘉志（こいけ よしゆき） 教育学部子ども発達学科 教授
研究分野	算数、算数教育学
講義内容	「$35 \div 7$はいくつですか？」と聞かれれば、私たちはすぐに「5」と答えることができます。しかし、なぜ私たちはそれを瞬時に理解できるのでしょうか。 普段何気なく使っている四則計算ですが、その仕組みは決して単純なものではありません。それは、人類が長い年月をかけて積み上げてきた知恵の結晶なのです。割り算の計算の仕組みも例外ではありません。 皆さんも童心に返り、小学生が割り算を習得していくプロセスと一緒に体験してみませんか？

No. 47 思い込みって、あてになる？ 一別の見方と心の回復カー	
担当講師	堀 篤実（ほり あつみ） 教育学部子ども発達学科 教授
研究分野	臨床心理学
講義内容	「既読スルーされたらどう思う？」そんな身近な場面をもとに、私たちがどのように物事を捉えているのかを考えます。 思い込みや見方のクセに気づくワークを通して、自分や他者への理解を深めるとともに、落ち込んだときに立ち直る力（レジリエンス）についても学びます。

No. 48 届け！ハピ声スマイル ～こどもたちの幸せを願って	
担当講師	伊藤 龍仁（いとう たつひと） 教育学部子ども発達学科 教授
研究分野	児童福祉、社会的養護
講義内容	子どもの笑顔や笑い声には、幸せのヒントが詰まっています。この講義では、子どもの「ハピ声スマイル」から見える心のサインや、社会に必要なやさしさについて考えます。 保育や教育、そして人のしあわせに関心がある高校生のみなさん、未来をあきらめない仲間として、いっしょに学びませんか？

No. 49 言葉っておもしろい！	
担当講師	山本 かほる（やまもと かほる） 教育学部子ども発達学科 特任教授
研究分野	国語科教育、教師教育
講義内容	「今日、飲みにいかない?」「大丈夫です」・・・断ったつもりなのに、行かなかったら怒られちゃった。なんでそうなるの?」 ・・・みなさんZ世代はふつうに使っていても、上の年齢の人には通じない言葉ってあるみたいです。どうしてそんなことが起こるのでしょうか。お互いの体験を交えて一緒に考えてみませんか。 後半はいろいろな詩をみんなで楽しく音読して、ストレス発散をしつつ、言葉の楽しさを味わいましょう。言葉って、やっかい。でもおもしろい！

No. 50 子どもの絵の不思議！?	
担当講師	新實 広記（にいみ ひろき） 教育学部子ども発達学科 教授
研究分野	美術教育学
講義内容	子どもの絵は、人の心をひきつける魅力を持っています。つい微笑んでしまいたくなるような絵。躍動感ある生き生きとした絵。たくさんのメッセージが盛り込まれた絵。そんな想像力無限大の子どもの絵は大人の常識からすれば大きさ・設定などがムチャクチャなものばかりです。これら、子どもの絵の不思議はいつたいどこから来るのでしょうか? この講義では、子どもの絵を観察しながら常識にしばられないイメージの世界、子どもの夢のような世界について探っていきます。

No. 51 小学校教師になるには	
担当講師	白井 克尚（しらい かつひさ） 教育学部子ども発達学科 准教授
研究分野	社会科教育、生活科・総合的学習
講義内容	小学校教師の仕事は、とても素敵で面白くやりがいのある仕事です。でも、小学校教師の仕事って、実際はどんなことをしているのでしょうか?小学校教師になるには、どんな方法があるのでしょうか?小学校教師になるには、どのようなことを意識して高校生活を過ごせばよいのでしょうか? この講義を通じて、教えられる側から教える側へと見方を変えながら、一緒に考えていきましょう。

No. 52 元気な子どもに育つ運動の秘訣とは	
担当講師	伊藤 数馬（いとう かずま） 教育学部子ども発達学科 准教授
研究分野	体育科教育学、サッカー
講義内容	幼児期や児童期に体を動かすことは、人間が健やかに暮らしていくために非常に大切です。 この時期にどんな運動をどのように行うのが良いのか、一緒に考えてみたいと思います。 体を動かすことが好きになる、運動が上手にできる子どもを育てる指導法と一緒に学習します。

No. 53 社会と学校との関係を考えてみよう	
担当講師	武 寛子（たけ ひろこ） 教育学部子ども発達学科 准教授
研究分野	比較教育学、高等教育論
講義内容	みなさんが受けてきた学校での教育は、時代、国、地域などによって内容や環境が異なります。 学校の規則は?学校での文化祭や運動会の取り組みは?教室での性別による役割の違いは?制服は?... どんなことが違って、どんなことが同じなのでしょう。また、なぜそのような違いがあるのでしょうか。みなさんが受けてきた学校でのルールや体験を振り返って、社会と学校との関係について考えてみましょう。

No. 54 子どもと遊び	
担当講師	松本 亜香里（まつもと あかり） 教育学部子ども発達学科 講師
研究分野	幼児教育、保育
講義内容	保育所や幼稚園など、保育の場でも子どもは元気いっぱい遊んでいます。その遊びの場面を覗いてみると、3歳児クラスと5歳児クラスとでは遊びの環境や遊びの内容が少しずつ異なります。 この講義では、「遊び」を子どもの発達を意識しながら体験して、「専門職」としての保育者とは何かを考えてみましょう。

No. 55	伝承遊びから子どもや 保育を考えよう
担当講師	渡邊 明宏（わたなべ あきひろ） 教育学部子ども発達学科 講師
研究分野	幼児教育、保育
講義内容	伝承遊びときいて、どんなことをイメージしますか？人によっては、古くさい、面倒くさい……といったイメージがあるかもしれません。 でも実は、伝承遊びは子どもの心身の育ちにとってメリットがたくさんある保育教材です。素朴な遊びを実際にやってみて、まずは童心にかえてみましょう。そして、子どもや保育について考えてみませんか。



愛知東邦大学
AICHI TOHO UNIVERSITY

オンリーワンを、一人に、ひとつ。